

令和 5 年 5 月 28 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00057

研究課題名（和文）ヴェーダ文献におけるソーマ祭の構造の基礎研究

研究課題名（英文）A Basic Study on the Constitution of the Soma Sacrifice in the Vedic Literature

研究代表者

大島 智靖（Oshima, Chisei）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・研究員

研究者番号：60626878

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、古代インド・アーリヤ人が伝えてきたソーマ祭、その基本形とされるアグニシュトーマと呼ばれる大規模ヴェーダ・シュラウタ祭式の冒頭儀礼を、ヴェーダ文献を基にして再構築することを試みた。殊に、近年新資料として注目されているヴァドゥラ学派のシュラウタ・スートラを含めた潔斎儀礼の行程を、ヤジュルヴェーダ諸学派との比較により初めて明らかにした。ソーマ祭の概観に新たな視点を加えるとともに、ヴェーダ文献学全体のテーマであるシュラウタ祭式文献の編集と相互発展の歴史を説明する上で、一研究材料を提供した。また現代に継承されるアグニシュトーマを映像に収めることに成功した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

古代インドの遺産であるヴェーダ祭式の再構築は、古代のみならず、異文化理解・共生思想の点で現代インドを理解し、付き合っていく上でも根幹となるべきものである。各儀礼が持つ神話と意義解釈は、後代にヒンドゥー教・仏教・ジャイナ教において確立する輪廻思想に大きく関わっており、アグニシュトーマの中で熟成した死生観を説明することは、アジアにおける輪廻思想の源泉を探求することに等しい。また、現代に至るまで継承されているアグニシュトーマを映像に保存し、近代のマニュアルと共に研究することはインド文化の変容と継続の歴史を明らかにする一助となるはずである。

研究成果の概要（英文）：In this study, I have attempted to reconstruct, based on Vedic literature, the Soma Sacrifice handed down by the ancient Indian Aryans, specially, the beginning rituals of the large-scale Vedic Sruta Ceremony called Agnistoma, which is considered to be the basic form of the Soma Sacrifice. In particular, the process of the consecration ritual, including the Sruta Sutra of the Vadhula school, which has been attracting attention as a new source in recent years, was clarified for the first time by comparing it with other schools of the Yajurveda. In addition to adding a new perspective to the overview of the Soma Sacrifice, this work provides a research material for clarifying the history of compilation and mutual development of the Sruta ritual literature, which is the theme of the entire Vedic literature. I also succeeded in capturing on film the Agnistoma inherited by the modern age.

研究分野：インド学

キーワード：ヴェーダ 古代インド 婆羅門 祭式 ソーマ祭 潔斎 ディークシャー アグニシュトーマ

1. 研究開始当初の背景

古インド・アーリヤ人が継承してきたソーマ祭は中核をなす祭式のひとつであり、その最小単位となる基本形はアグニシュトーマ(あるいはジョーティシュトーマ)として整備されるに至った。リグ・ヴェーダ及びアタルヴァ・ヴェーダの讃歌集の中に伺えるソーマ祭はまた別として、最古層のサンヒター(マントラ集)及びブラーフマナからシュラウタ・スートラに至るヴェーダ文献の訳注研究・分析が進展するとともに、古代インドにおけるソーマ祭の構造が明らかになり、その儀礼行為の背後にある思想もまた文化・社会人類学的価値を持つものとして注目された。

ソーマ祭基本形の儀礼構造は、W. CALAND et V. HENRY, *L'agniṣṭoma: Description Complète de la Forme Normale du Sacrifice de Soma dans le Culte Védique*, 2vols., Paris, 1906-07 においてシュラウタ・スートラ文献に基づいた再構築により把握できるようになった。研究はその後大きな進展を見せ、主要なものに関しては主にインド人学者による訳注研究が揃っている。しかしマントラ適用の差異意図や、近年新たに発見された新タジットィリーヤ派の一派として独自の規定や思想を遺すヴァードゥーラ派の文献が含まれていない点が大きな課題として残っている。

2. 研究の目的

ソーマ祭の基本形となるアグニシュトーマの構造について、冒頭の潔斎儀礼(=ディークシャー、Dīkṣā)を手始めとして各学派における儀礼行程とマントラ適用の差異を明らかにする。ヴァードゥーラ派を加えることにより、より厚みのある考察を行う。各学派を総合比較することによって、祭式的発展の様相を解明する。

3. 研究の方法

(1)ヴァードゥーラ派を含めた儀礼史として、第一にシュラウタ・スートラ研究においてヴァードゥーラ派の文献を含める。これにより Caland & Henry の *L'agniṣṭoma* の補遺版を目指す。近年、京都大学人文科学研究所における共同研究において継続してヴァードゥーラ派の文献を含めたヴェーダ儀礼研究が行われているが、基本形であるアグニシュトーマが前提となる記述も多く、早急にヴァードゥーラ派のアグニシュトーマが研究されるべき状況であるが、校訂テキストは井狩彌介京都大学名誉教授による提供を受けることができた。

(2)第二に、本研究はブラーフマナ文献からの祭式構造展開を考慮している。個別研究の動向を見ても、ブラーフマナからシュラウタ・スートラへの祭式発展史に着目したものは決して多くない。従って、横と縦の分析により重層的知見を提供する。ブラーフマナ期からシュラウタ・スートラ期への祭式展開を考慮し、従来研究領域が乖離しがちな分野を繋ぎ、インド・アーリヤンの祭式文化研究における重要な資料を提供することを目指した。

(3)本研究の研究期間中に、インドにおけるアグニシュトーマ開催の情報を得た。祭式構造を研究する上で、現代のスタイルを参考にすることは大いに意義がある。映像として残し、必要に応じて提供・公開し、変容と継続のインド文化を解明するための貴重資料となることを目指した。

4. 研究成果

(1) Vādhūla (Vādh.) 派の Śrauta-Sūtra (ŚrSū) が伝える Dīkṣā はこれまで知られているヤジュルヴェーダ諸学派のどの学派とも多くの点で異なっており、その独自性が見られる。従来知られている通り、最も保守的である Baudhāyana (Baudh.) 派との共通点が多いが、Dīkṣā においては随所に Baudh. と異なる規定を伝える。特に、Dīkṣā で執行する Iṣṭi (穀物献供儀礼) における独自のマントラ適用、省略する儀礼の相異が見られた。一例として、Dīkṣā における「祭場」と「臨時遠征・外泊」の規定では、ブラーフマナ群におけるマントラ適用の変遷から影響を受けていることが判明する。黒ヤジュルヴェーダ学派諸派では遠征・外泊の必要が生じた際に用いるマントラの規定があるが、白ヤジュルヴェーダ学派はこの伝統を改変し、遠征・外泊の規定を省き、マントラを Dīkṣā 冒頭の祭場入場の規定に新たに適用した形跡がある。ブラーフマナ時代に起こった変革(発案者はヤージュニャヴァルキヤに帰せられている)は、後代の ŚrSū 文献群編纂の際にも少なからず影響を及ぼしたと考えられる。新タジットィリーヤ派と呼ばれる諸派は白ヤジュルヴェーダ学派のこの改変に従い、確立している。一方、この点について Vādh. は Baudh. とは異なり、かつ新タジットィリーヤ派諸派と共有しつつもさらに独自のマントラ適用が認められる。最古層に位置するとされる Baudh. に対して、極めて近い位置にありながらも随所において異議を唱える Vādh. は、新タジットィリーヤ派諸派の ŚrSū 文献群に刺激を与えたヴェーダ祭式変革期の旗手として重要な役割を担っていた可能性が示唆されるのである。今後もあらゆる儀礼におけるマントラ適用の精査により、このような位置付けが明確になってくると考えられる。Dīkṣā 全体における諸儀礼の相異は、学派によりいかに異なるかを表で概観すると以下のようになる。

(2) ŚrSū 諸派の Dīkṣā 儀礼次第 (Āp.=Āpastamba, Mān.=Mānava, Kāty.=Kātyāyana)

紙面の都合上省略箇所あり。

001	Baudh. 6	Vādh. 6.1	Āp. 10	Mān. 2.1	Kāty. 7
002			準備	準備	準備
003			3.1 祭場		祭場
004	6.1 材料	≈1.1 材料			
005	小屋	1.2 小屋	↓	↓	1.19 小屋
006	祭主妻の小屋				1.34 祭柱献供
007		1.3 水中 Dīkṣā			
008		1.4 祭場入場 <bhadrād, bṛhas°>			
009	小屋入場	1.5 小屋入植 <athem><āre>			
010		1.6 祭場マントラ <edam><viśve>	3.3 祭場入植 <edam>	1.6 祭場入植 <edam>	1.36 小屋入植 <edam>
011			3.5 材料祭詞		
012				1.7 小屋建設	
013				1.13 Dīkṣā 餐食	2.4 餐食
014		1.7 祭場被徐*			
015		1.8 śākhā			
016		1.9 Stambāhuti			
017					
018	Prapādana etc.	1.10 Prapādana etc.			
019	Soma-結び				
020	upaviśata				
021	G°ājya-vilāpana		3.8 grahahoma	1.15Graha-homa	
022	↓	1.11 穀物祭	4.2 穀物祭 /酪粥	1.16 穀物祭 /酪粥	
023		1.12 バター覗く			
024	バター献供	バター献供			
025			サーミデーニー	材料祭詞	
026			他学派説紹介		
027			4.7 妻の儀礼	1.18 妻の儀礼	
028			他学派説紹介	1.19 音調規定	
029	Option:祭柱献供				
030		1.14 Vedi 掌握			
031		1.15 Vedi 囲う			
032		1.16 指令 <prokṣaṇīr>			
033		妻の帯締め	(←agree) 4.13		
034		34 ~ 41 : 独自規定			
042			5.1 小屋建設		
043	着衣				
044	誓戒前食事				
045	tīrtha-sambharaṇa	1.47 水 Dīkṣā 材料			
046	祭主 niṣkramaṇa	1.47 小屋を囲う	5.6 小屋を囲う		
047	6.2 水中 Dīkṣā	水中 Dīkṣā	5.7 水中 Dīkṣā	1.21 水中 Dīkṣā	2.7 水中 Dīkṣā
048	6.3 妻水中 Dīkṣā		6.3 妻水中 Dīkṣā	1.33 妻水中 Dīkṣā	2.26 穀物祭 /酪粥
049			6.7 餐食		2.33 水中 Dīkṣā
050			6.11 水中 Dīkṣā	1.35 水中 Dīkṣā	3.7 指曲げ
051	小屋に導く				3.9 拳をつくる
052	小屋入場	2.20 小屋入場	8.1 小屋入場	1.44 小屋入場	3.11 小屋入場
053	穀物祭		8.3 他学派穀物祭		
054	6.4 Dīkṣā 献供	2.24 Dīkṣā 献供	8.6 Dīkṣā 献供	2.1 Dīkṣā 献供	3.16 Dīkṣā 献供
055	本 Dīkṣā	2.27 本 Dīkṣā	8.11 本 Dīkṣā	本 Dīkṣā	3.20 本 Dīkṣā
056			10.6 Anuvāka		

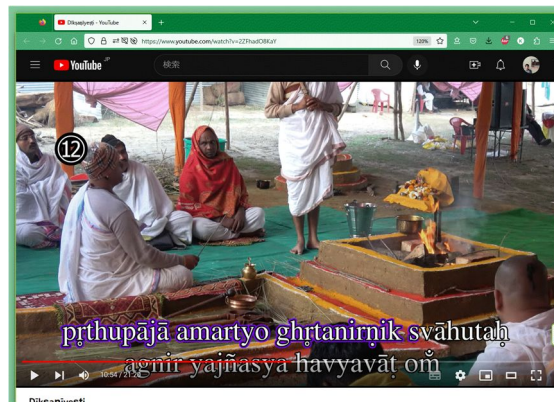
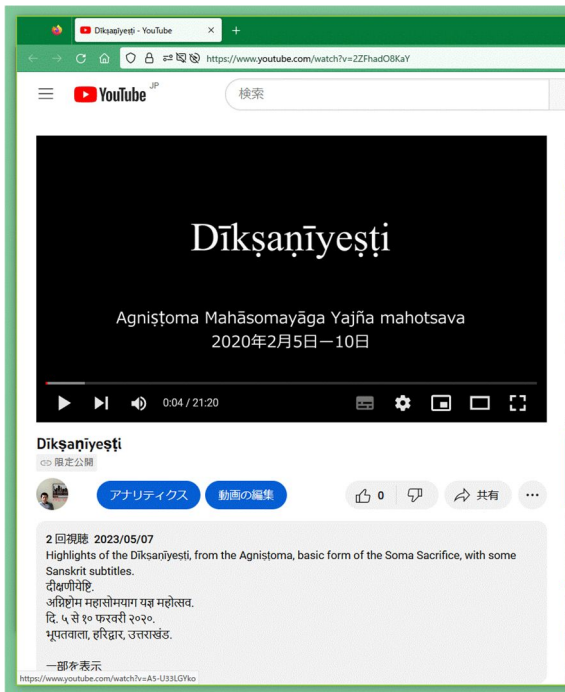
057			10.2 材料祭詞		
058			11.3 指曲げ	2.20 指曲げ	
059	6.5 拳をつくる		11.4 拳をつくる	2.20 拳をつくる	
060	6.6 禁止事項				
061	無言行	3.19 無言行	12.3 無言行	2.20 無言行	4.13 無言行
062	誓戒食搾乳		12.4 誓戒食搾乳	2.25 指を開く	
063	言葉を放つ	3.20 言葉を放つ	12.4 言葉を放つ	2.27 言葉を放つ	4.14 言葉を放つ
064					4.19 誓戒食搾乳
065			12.5 指を開く		
066	接待		12.7 招請		
067			13.1 禁止事項	2.32 禁止事項	
068			13.9 排尿		
069		↓	13.10 射精		
070		↓	14.1 鼻汁・涙汗		
071			15.1 日程規定		
072	不浄、雨	↓	15.7-8 不浄、雨	2.36 雨、不浄	
073			16.16 無言行		
074			17.1 言葉を放つ		
075			17.2 無言行		
076			17.2 言葉を放つ		
077	↓	3.21 誓戒食提供	17.8 誓戒食提供	3.4 誓戒食提供	4.29 誓戒食提供
078	↓	3.24 誓戒食	17.9 誓戒食	3.6 誓戒食	4.33 誓戒食
079				3.9 無言行	
080					4.35 触臍
081					4.36 排尿
082	6.7 睡眠規定	3.27 睡眠規定	18.1 睡眠規定	3.10 睡眠規定	4.39 睡眠規定
083	起床	4.1 起床	18.2 起床	3.11 起床	4.40 起床
084	水を啜る				
085	誓戒食提供 誓戒食	4.4 誓戒食提供			
086		4.5 無言行			
087	誓戒食搾乳				
088	言葉を放つ				
089	睡眠規定、起床				
090	水を啜る				
091	誓戒食				
092	6.8 寄進請う	4.6 寄進請う	18.4 寄進請う	3.13 寄進請う	5.3 寄進請う
093					5.7 招請、禁止事項
094	6.9 入場議論	4.17 入場	19.6 外泊・遠征		
095	遠征の議論				
096	帰還	外泊・遠征、帰還	19.8 帰還	3.14 外泊、帰還	
097	渡河	4.19 渡河	19.9 渡河	3.16 渡河	
098	渡河		19.11 渡河	3.17 渡河	
099	外泊・遠征				
100	日昇礼拝				
101	祭場入植	4.24 祭場マントラ	19.15 他学派説		
102	25.5 祭場設立		20.1 祭場設立	3.19 日程	
103		4.26 不浄、雨			
104		4.28 涙			
105		4.29 鼻汁、sebhu、 汗、血液、尿、嘔、 射精			

*Agnicayana と祭火設置祭で執行される祭場のお祓い儀式。

(2) 2020年2月5日～10日、インド北部・ウッタラーカンド州、ハリドワール県におけるソーマ祭(すなわちアグニシュトーマ)を取材し、映像を記録した。現代におけるソーマ祭の

現状と古代文献より再構築するソーマ祭との間にある継承と断絶について、さらなる考究を進めた。ハリドワールにおけるアグニシュトーマの内容は基本的に、カルナータカ州及びマハーラーシュトラ州で発見された 1800 年代前半から中盤にかけてのものとされるパームリーフ写本群をエディットした 2009 年出版の『アーパスタンバ・シュラウターストラ・プラヨーガ』(= AZP) に依っている。AZP とタイッティリーヤ派諸文献を照らし合わせて、アグニシュトーマ冒頭の「潔斎イシュティ」という穀物献供儀礼における儀礼行為の確認と、適用された詩節/マントラ/サーマンの文字起こしを行った。一部確定できない部分や不可解な点も見られたが、全体的に古代文献に遺された詩節やマントラの再現の忠実さを確認することができた。潔斎イシュティの映像は 20 分ほどに編集し、判明したマントラ、サーミデーニー讃歌の経文、Tārksya-sāman (歌詠祭官による声明) における歌詞と音符をテロップとして付加し、参照に資した。この映像は YouTube にアップロード (限定公開) し、研究者の閲覧を期待したい。

URL: <https://www.youtube.com/watch?v=2ZFhadO8KaY>



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Oshima, Chisei	4. 巻 1
2. 論文標題 Smell or Incense in Vedic Ritual	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 roceedings of the 17th World Sanskrit Conference, July 9-13, 2018	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14288/1.0379849	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大島智靖	4. 巻 68-2
2. 論文標題 「睡眠」と「死」のマントラをめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 1106-1101(1-6)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Oshima, Chisei	4. 巻 1
2. 論文標題 On the Concept of the Soma Sacrifice: From the Perspective of the Consecrated Sacrificer	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Living Traditions of Vedas, Proceedings of the International Vedic Workshop 2014	6. 最初と最後の頁 131-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件／うち国際学会 2件）

1. 発表者名 大島智靖
2. 発表標題 アグニシュトーマにおけるイシュティのモディフィケーション
3. 学会等名 ブラフマニズムとヒンドゥイズム－南アジアの宗教と社会の連続性と非連続性：第8回シンポジウム「古代・中世インドにおける供犠と創生の思想展開」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Oshima, Chisei
2. 発表標題 A Comparative Analysis of the Structure of the Agnistoma According to the Vedic Schools: The Thought on Vadhula-Srauta-Sutra
3. 学会等名 The 7th International Vedic Workshop, August 19-24, 2019, Inter University Centre Dubrovnik, Croatia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chisei Oshima
2. 発表標題 On the Smell or Incense in the Vedic Ritual
3. 学会等名 The 17th World Sanskrit Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大島智靖
2. 発表標題 ソーマ祭基本形の構造と新タイッティリーヤ派
3. 学会等名 第11回ヴェーダ文献研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大島智靖
2. 発表標題 “魂”はめぐる
3. 学会等名 弘法大師空海ご誕生1250年記念仏教講演会・一般公開講座(招待講演)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 藤井 正人、手嶋 英貴	4. 発行年 2023年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 476
3. 書名 ブラフマニズムとヒンドウイズム 2	

〔産業財産権〕

〔その他〕

現代のヴェーダ祭式 ソーマ祭における潔斎イシュティ テロップ付き映像（約20分）を限定公開。 https://www.youtube.com/watch?v=2ZFhad08KaY

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------